

2014年7月

福祉施設、医療施設などへの聴き取り結果～原発の避難計画について

川内原発 10～30km 圏内の複数の社会福祉施設・医療関係者から、話をきいたポイントをまとめました。

<社会福祉施設>

- ・市の避難計画をはじめてみた。できもしないことがさらりと書いてあることに驚いた。福祉施設向けの説明会をやるべきでは。
- ・うちの施設は、100床。一か所にそれだけの数を受け入れることは不可能。
- ・1994年の水害の際には、日置市の「喜楽奈村」という特別養護老人ホームが水害にあい30人の入所者が避難しなければならなかったとき、3～4人ずつ7か所の施設で受け入れた。それでもたいへんだった。その例を踏まえれば、100人は25か所くらいが必要。
- ・「通所者を自宅に送り届ける」と書いてあるが、昼間は家族がいない、独居である、認知症が重いなどの人を送り届けることには、その人を放置することになる。
- ・県や市から、避難計画をつくれ、という指示はない。
- ・職員が、通所者を送り届け、同時に、入所者の避難をするなど無理。
- ・普通の車両では運べない。特殊車両は寝たきりの人や車いすの人を2～3人くらいしか載せられない。単純計算でも7～8往復することになる。
- ・送り届けている間、まだ避難できない入所者のケアも必要。
- ・普通の避難より3倍以上の時間がかかる。
- ・避難車両で渋滞している中、ピストンなどはできないだろう。そもそも、戻ってこれないだろう。
- ・まずは施設の現状を調査して、意見をききくべきでは。
- ・「屋内退避」といったって、いったいいつまでの期間なのかかわからない。物資や医療品もつきるだろう。そんな準備はできていない。
- ・透析患者はどうするのか。

<医療機関>

- ・避難計画をつくることは、一医療機関の能力を超えている。
- ・酸素吸入、点滴などの医療行為はどうするのか。
- ・患者を運ぶ車もない。ただの車ではだめ。身体障害者を運ぶ車が必要。食事／トイレの世話も。
- ・市や県から、「計画をつくれ」という連絡は来ていない。

(満田夏花/FoE Japan)